

## 人はそれぞれ違うもの

関川村立関川中学校三年 渡邊 健斗

人はそれぞれ違う考えをもっているが、自分は平和な日常生活を送りたい……。中学校に入学した頃、私はそう思いました。

ある生徒会行事で、相手を傷つけてしまう行為やいじめの解決方法などを学び、「いじめを起こさないためには、相手の気持ちを常に考えて行動することが一番だ」と実感しました。これならできると、すぐに実行しました。すると、驚くほど物事がスムーズに運び、トラブルなく日常生活を送ることができました。

しかし、そのうちにある思いが生まれてきました。それは「相手の意見にどうしても納得できない。反論して自分の意見を言いたい」というものでした。周りとは平和に過ごしたいと望んでいるのに、なぜこんな気持ちになるのか不思議でした。その時は、これを言うときの空気がおかしくなると思い、その言葉を飲み込みました。しかし納得いかない思いが強く残りました。

その後も、あのときはどうすればよかったのか迷う気持ちが続きました。しかし、その頃学校で「場の空気を読む」ことは、みんなの共通の重要なことでした。はっきりとした解決方法が見つからないまま、時間が経っていきました。

ある日、私ははっとしました。今までの自分は「相手の言いなり」だった……。自分の意思や気持ちの大切さを忘れていたのではないかと思ったのです。そうだ、自分の意志や気持ちを大切にすることをすべきだったと気がつきました。

今度は、自分の意見や気持ちを隠さずに相手に伝えるようにしました。それはよかったのですが、ある話し合いできつく多くのことを言い過ぎてメンバーと言い合いになってしまいました。しかしその後、相手と意見の違いを話し合ったり、相手はそのとき思っていたことなどいろいろな話をしました。このことで、今まで知らなかった相手の立場や考え、自分の悪かった点に気付くことができました。

この経験から、二つのことを学びました。それは「相手と自分の意見のすれ違いをそのままにしておく」と誤解を与えることがある」ということと、「相手と自分の意見の交流が新しい意見や発想を生む」ということです。

私はこのことを学んでから、相手のことも自分のこともよく見るようになりました。自分は何が言いたいのか、相手は何が言いたいのか、相手はこちらの意見を聞いてどう思うかなど……。自分の気持ちと相手の気持ちをよく見つめることができるようになりました。

これを行動にうつすと、周りとのやりとりにも変化が出てきました。自分の意見を相手が受け入れ、相手の意見を私も受け入れ、お互いの意見を言い合うことができるようになりました。それができると、今までと違った新しい発想までも生まれてきたのです。とてもいい流れを感じ、うれしくなりました。

人はそれぞれ違う考えを持っています。違うからこそ、相手のことを考える必要があり、相手との交流、コミュニケーションが重要なのです。きちんと両者の交流ができればよい人間関係を築くことができるはずです。

これはどの人にもいえることです。私が感じた迷い、悩み、つらさを、多くの人も感じたのではないのでしょうか。

「場の空気を読む」という風潮、深刻ないじめの問題も、人との違いをマイナスにとらえた結果の問題です。自分と相手の意見は違って当たり前！その違いをお互いにみつめよう、交流しようという考えを持ってみませんか。そうすれば、周りの人との話し合いや交流にゆとりをもって臨むことができ、明るい気持ちで毎日を送ることができるのではないのでしょうか。

人はそれぞれ違うもの・・・。だから楽しい。その思いを心に刻んで、毎日を過ごしていきたいです。